

平成 23 年 5 月 20 日現在

機関番号：3 2 6 8 2

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008～2010

課題番号：2 0 3 1 0 1 5 1

研究課題名 (和文) カナダの多文化政策とその地域間格差

研究課題名 (英文) Canada's Multicultural Policies and Regional Differences

研究代表者

藤田 直晴 (FUJITA NAOHARU)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：8 0 1 6 7 6 2 6

研究成果の概要 (和文)：

カナダの多文化政策に相応する複合的・多角的な観点から、カナダの5つの主要都市を中心に調査を行い、学術的にも都市地理学、都市社会学、都市政策、都市政治学、環境政策、文化と文学といったマルチ・ディシプリナリーな観点から、カナダの多文化政策に関する研究を行った。ヴァンクーヴァー、カルガリー、トロント、オタワ、モントリオールには、多くの移民が集中することから、社会的不平等や地域間格差を是正するための多文化政策は重要となる。このカナダの豊かな民族的多様性は、世界に広がる豊かなネットワーク資源となり、カナダの「強み」と「楽しみ」へと直結している。しかし、国際競争力が上昇するために、カナダの多文化社会が抱える「弱み」や「苦しみ」にも目を向ける必要があるため、長所・短所双方の観点から考察を加えた。本研究課題の成果に関しては、図書として2011年度中の出版に向けて準備中である。

研究成果の概要 (英文)：

From multi-disciplinary perspectives ranging from geography, sociology, environmental study, politics, public administration, art and literature, this study sought to conduct a variety of field research on Canada's multiculturalism, and to examine its policy to create as well as maintain the multiculturalism. The field researches have been conducted in Vancouver, Calgary, Toronto, Ottawa, and Montreal, all of which have absorbed a wide range of immigrants, and have created a "mosaic" society where a variety of cultures and people have been intermixed. Canada's pluralism has expanded to create a wide international outreach, which has resulted in Canada's international competitiveness. This study, however, also sought to shed light not just on the outcome of, but also on the entire processes of the multiculturalism where "weaknesses" and "struggles" for multiculturalism, along with its "strengths" and "comfort", should have been overcome. In conclusion, this study now seeks to publish the outcome as a book in 2011.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2009年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2010年度	3,200,000	960,000	4,160,000
年度			
年度			
総計	12,900,000	3,870,000	16,770,000

研究分野：都市地理学

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：カナダ、多文化政策、都市、移民、多様性、共生、地域間格差、社会不平等

### 1. 研究開始当初の背景

2001年9月11日のニューヨークでのテロ、2005年夏のロンドンでのテロ、同年秋のパリでの暴動は、「多様性と共生」について改めて人類普遍のテーマであることを認識させた。同時に、国境を超えた人々の流動性が急速に拡大するなかで、民族を超えて、人々が豊かで平和に共生することのできる「場＝国家」を建設することの意味とその重要性を世界がより強く意識するようになった。

こうしたなかで、民族的に世界的な広がりをもち、モザイクという共生モデルを創りあげようというカナダでの「実験」は、世界の人々に大きな夢と希望を抱かせるものである。カナダ社会は、アメリカのメルティング・ポットと異なり、移民の文化やアイデンティティを相互に認め合うことに特色がある。このため、逆に共通文化に弱さがあり、国民統合という点で問題視されることもある。

多民族ゆえのカナダの「強さ」と「弱さ」、「楽しさ」と「苦しさ」に関する研究の意義は、民族対立が世界的に激化するなかで、より大きなものになってきているという時代要請が本研究課題の背景にある。

### 2. 研究の目的

多文化政策は、民族集団間の軋轢を回避する手段としてはじまった経緯があり、本来的な意味での「文化政策」として語られることは少ない。また、この分野の研究は、国レベルのものが中心で、都市(間)に浮かび上がる文化的差異と多様性に視点をおいた比較研究は数少ない。

本研究では、第一に、国の多文化政策と都市での受容過程を明らかにする。5つの都市の間には、都市の成長性や発展段階あるいは民族構成に大きな差異がある。社会・経済・文化指標を使用して比較分析を行い、多様な受容形態があることを明らかにする。

第二に、実際の文化活動(映画・音楽祭、博物館・美術館、コンサート、大道芸、出版など)及び都市の建築や景観、パブリック・アートやイベント事業などを多文化政策に関連づけ、都市(間)の比較分析を行う。

第三に、物質的価値から生じる地域的格差と民族間格差の現状を把握したうえで、その是正に対する多文化政策の有効性に目を向ける。

第四に、多文化政策の理念の時代的变化として、少子化対策や労働人口の確保など産業労働問題の解決策としての意味も増大して

きており、世界の民族層序のカナダ都市においての固定化が進みはじめてきており、新たな克服すべき課題として位置づけることの意味が増してきている。本研究は、このような問題を総合的に明らかにすることを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) ヴァンクーヴァー、カルガリー、モンリオール、トロント、オタワなど5大都市圏(CMA)に共同研究者をそれぞれ複数割り当て、研究代表者の藤田と研究分担者の小畑・伊藤で全体を総括する形で研究を進めた。本研究課題では、現地での実態調査に重点を置き、並行してカナダの研究者や世界のカナダ研究者と面談・交流し、意見交換や専門的知識の取得を図り、合わせて各種の資料・データ、書籍の収集を行った。

(2) 現地調査としては、初年度に広松がバンクーバー、虎岩がオタワ、伊藤がカルガリーでそれぞれ実施した。2年目には、藤田がトロント、小畑がモンリオール、広松がバンクーバー及びその周辺、虎岩がオタワで調査し、3年目には、小畑がモンリオール、広松と伊藤がバンクーバーおよびその周辺で進めた。

(3) 資料については、カナダ統計(Statistics Canada)や州政府や市役所などの官公庁関係の出版物・統計集、文化政策・エスニック関係の文書、議会関係資料、研究書、各種写真や地図類を収集した。また、代表的な文学作品や映像作品、都市やコミュニティでの祭(フェスティバル)のような民族的色彩の強いイベント関連のパンフやプログラムなどの資料収集、都市建築やパブリック・アートやイベント関連の資料収集を進めた。

(4) この間、研究会を適宜開催し、本課題研究者間の研究成果や意見の交換を行った。これにより、問題点の共有、現地調査の項目調整が進み、共同研究の効率性を高めることができた。また、多文化政策、都市政策、移民問題や海外事業に関する専門家を招き、専門的知識の提供を受け、研究内容の豊富化を行った。

### 4. 研究成果

(1) 聞き取り調査・資料調査

① 研究者間に割り当てられた都市におい

て現地実態調査を行い、多文化政策がバンクーバー、カルガリー、トロント、オタワ、モントリオールでどのように受容され、この政策の「格差」と「不平等」の是正という本来の目的が、これらの都市でどの程度実現しているのか、都市（間）の相対比較を行い、それらのポジショニングを明らかにした。

② 都市地理学、都市社会学、都市政策、都市政治学、環境政策、文化と文学といった専門分野の視点から、5つの都市における各民族の社会的位置づけ、多文化政策に対する意識の違いの程度など質的な側面を明らかにした。各民族集団の都市内での分布、総人口に占める割合、政治・社会活動への参加度、文化政策や文化活動（文学・音楽・演劇など）への参加度を調べ、民族間にみられる特性を明らかにした。これは、5つの都市での聞き取り調査などを通じて明らかにしており、市川が開発した競争力インデックス手法により、世界座標におけるカナダ都市の相対的位置づけが可能であることが明らかになった。

③ 近年、隣国アメリカ合衆国においては、依然としてラテン系移民の流入が多い。これに対して、カナダへの移民はアジア系、特に中華系と南アジア系の増加が著しい。彼らは、集住傾向が強いが、ゲットー化することなく、モザイク社会の一翼を担っている。「同化」もせず、「孤立」もしないアジア系移民の実体が調査で明らかになった点は大きな収穫である。

## (2) 多文化政策の国際比較

① カナダにおける多文化政策を国際的比較の文脈に置く必要性から、カナダ以外での多文化政策とその地域間格差に関する文献資料・聞き取り調査を実施した。初年度には、虎岩と市川がイギリス、伊藤がアメリカ、マレーシア、ベトナム、インド、2年目には、市川がイギリス、伊藤がオーストラリア、3年目には、藤田が中国、虎岩がイギリス、市川が中国・アメリカ、伊藤がオランダ、オーストラリア、中国で実施した。

② こうした国際的文脈の中にカナダの多文化政策を位置づける試みによって、例えば、アイルランド系移民がイギリス諸島に移住する場合とカナダに移住する場合との比較、アメリカのアフターマティブ・アクションやマレーシアの「多極共存型」との比較考察が可能になり、複眼的・重層的な視点からカナダの多文化政策の現代意義を明らかにすることが可能となった。

## (3) 多文化政策と多文化社会に関する業績の社会発信

① 学会での発表等は、本研究課題の初年度に藤田が甲府において、小畑が岡山、伊藤がマレーシアで本研究課題と関連する研究報

告を行った。2年目には、研究代表者の藤田が会長（当時）を務める日本カナダ学会が明治大学で「カナダ研究の軌跡：未来への展望」というテーマの国際パネルとシンポジウムを開催した。カナダ大使、外務省北米局長、明治大学長、津田塾大学長（会員、元会長）の特別講演後、全体で10本の研究報告がなされ、多文化政策はその主要テーマのひとつであった。延500名が参加し、活発な議論が展開され、関心の高さがうかがえた。3年目には、藤田が千葉と中国・広州市での特別講演、市川が中国・広州市での特別講演、伊藤が中国・上海で多文化政策に関する報告をそれぞれ行った。

② また、本研究課題の共同研究者を中心に運営されている「明治大学カナダ研究所」がホームページを作成し、アジアにおけるカナダ研究の一大拠点として、国内外にアピールをした。

③ 研究代表者・分担者が、各自の研究成果に基づいて報告書となる論文を一人40,000字程度で執筆し、2011年度中に書籍として研究成果を出版するための作業を進めている。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）明確化した

〔雑誌論文〕（計37件）

- ① 藤田直晴「カナダの地域経済再考」明治大学駿台史学会『駿台史学』138巻、2010年、27-48頁。
- ② 伊藤剛「新しい米中関係を見越したアジア外交を」毎日新聞社『エコノミスト』2010年10月5日号、50-53頁。
- ③ 小畑精和「マルチカルチャリズムとインターカルチャリズム」『神奈川大学評論』第62号、2009年、84-91頁。

〔学会発表〕（計23件）

- ① Hajime Koshimizu, "Effect of Duty by Regulations on Green Proof Promotion," Shanghai World Expo, World Green Proof Conference, August 2010, Shanghai, China.
- ② Naoko Toraiwa, "Between History and Story," IASIL Japan Annual Conference, October 10, 2009, Shiga University.

〔図書〕（計7件）

- ① 市川宏雄監修『世界の都市総合力ランキング Global Power City Index YEARBOOK 2010』森記念財団、2010年、326頁。
- ② 藤田直晴・加藤普章・宮澤淳一・小畑精和編他著『はじめて出会うカナダ』有斐閣、2009年、296頁。
- ③ Naoharu Fujita, yosikazu Obata, Go

Ito et al. *Opening up a New Vista of Canadian Studies — The Papers and Proceedings of the International Panels and Symposium*, The Japanese Association for Canadian Studies, 2009, 125 pages.

[その他]

ホームページ等

<http://www.geocities.jp/profobata/mics.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

藤田 直晴 (FUJITA NAOHARU)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：80167626

### (2) 研究分担者

小畑 精和 (OBATA YOSHIKAZU)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：30191969

伊藤 剛 (ITO TSUYOSHI)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：10308059

虎岩 直子 (TORAIWA NAOKO)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：50227667

市川 宏雄 (ICHIKAWA HIROO)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：80298041

広松 悟 (HIROMATSU SATORU)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：00242925

輿水 肇 (KOSHIMIZU HAJIME)

明治大学・農学部・教授

研究者番号：60012019